

ゴムの選定ガイド

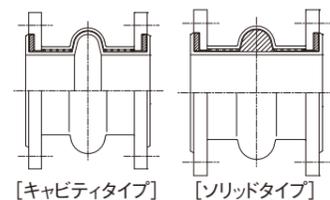
○:適している △:条件による ×:使用不可

ゴムの種類 要求性能	EPDM エチレン プロピレンゴム	CR クロロプレンゴム (ネオプレン)	NBR ニトリルゴム	NR 天然ゴム
耐熱性	△	△	△	△
耐寒性	△	△	△	△
耐溶剤性	×	×	△	×
耐油性	×	△	○	×
耐酸性	△	△	×	△
耐アルカリ性	△	△	△	△
耐候性	○	△	△	△
耐摩耗性	△	△	△	○

■本表は、材質選定の目安です。詳細につきましてはお問い合わせ下さい。

アーチ構造

エキスパンションや可とう管のアーチ部の内部構造をいいます。
内部が空洞になった[キャビティタイプ]と軟質ゴムで充填された[ソリッドタイプ]とがあります。標準は[キャビティタイプ]です。
[ソリッドタイプ]は汚泥など流体に固形物が含まれている場合に使用されます。
※ソリッドタイプアーチの場合変位量が減少しますのでご注意ください。



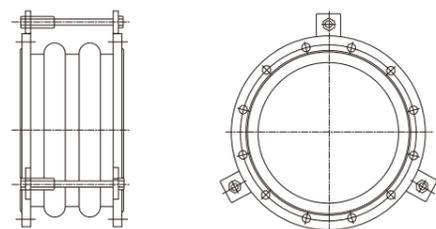
コントロールユニット

エキスパンションや可とう管に取り付ける面間寸法規制用のボルトをいいます。
目的に応じて[セットボルト]と[タイロッドボルト]の2種類があります。
※セットボルト及びタイロッドボルトのステーはフランジ溶融亜鉛メッキの場合でもローバル塗装となります。

セットボルト

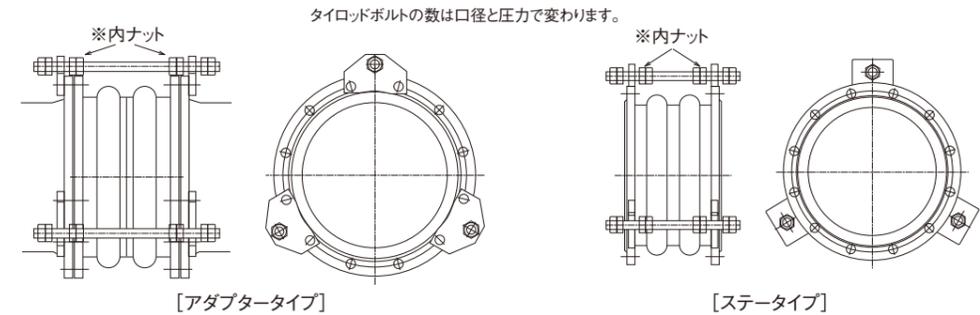
ジョイント据付け時の面間寸法調整用です。据付け後は必ず外して下さい。

セットボルトはゴムジョイントを配管に据付ける際の作業を楽にするために面間寸法を短くするものです。取付け作業後は必ず取り外して下さい。セットボルトの数は口径により変わります



タイロッドボルト

内圧により発生する軸方向の推力規制や過大变位防止用です。アダプタータイプ(標準)とステータイプ(特注)があります。



- アーチ構造を持ったゴムジョイントは加圧時に軸方向の推力(概ね断面積×内圧)が発生し、面間寸法が伸びます。そのときに配管や周辺機器に力がかかることがありますのでその場合には配管の支持を完全に行うか、タイロッドボルトをご使用下さい。
- また、ゴムジョイントに過剰な変位を加えると破壊する恐れがありますのでその場合にも同様にタイロッドボルトをご使用下さい。
- タイロッドボルトのナットを固定する位置は、変位量(圧縮、伸張、偏芯)にあわせて正しくセットして下さい。
- アダプタータイプの場合はアダプターを取付ける部分のボルトが他よりも長いものが必要となりますのでご手配の際には充分ご注意ください。
- タイロッドボルトは実際の使用圧力に合わせて設計されていますので、ゴムジョイント本体に表示された最高使用圧力とは一致しない場合があります。
- タイロッドボルトのナットは変位量に合わせた位置で固定するため、加圧時にその寸法まで伸びて配管に力がかかる場合がありますのでご注意ください。
※図中の内ナットはオプションです。

取扱い上のご注意

製品の機能を十分に発揮し、安心してお使いいただくために、以下の「取扱い上のご注意」を充分ご参照下さい。

使用上の注意事項

- ご使用前に製品の損傷の有無をご確認下さい。
特にパッキン面、ゴム本体内外面及びテフロン内面などに損傷がある場合は使用しないで下さい。
- 使用範囲について
最高使用圧力・最高使用温度が各製品の使用範囲内であることを確認の上ご使用下さい。
使用範囲外での使用は製品の寿命を著しく短くし流体の漏れなど不具合の原因となります。
- 変位量の補正について
製品の許容変位量は、単独変位の最大値で示されています。
従って変位が複合する場合は、次の式で補正して下さい。

$$\text{補正伸び量} = \text{許容伸び} \times \frac{\text{許容偏芯} - \text{偏芯}}{\text{許容偏芯}} \times \frac{\text{許容偏角} - \text{偏角}}{\text{許容偏角}}$$

- 製品は、締切運転などの誤作動によって破損する恐れがありますので運転時には必ずバルブの開閉をご確認下さい。
- 流体を急激に流すようなバルブ操作はしないように十分ご注意ください。
- 製品は管内流速3m/s以下でのご使用をお勧めします。
- 加圧・増圧ポンプのデリバリー側等、圧力変動の繰返しが頻繁に発生する箇所には使用しないで下さい。

■塩ビフランジを使用する場合は下記の条件にてご使用下さい。

塩ビフランジを使用する場合		最高使用温度
最高使用圧力		
20A~100A	0.5 MPa	55℃以下
125A~150A	0.25MPa	
200A~300A	0.2 MPa	

保管上の注意事項

- 運搬中・保管中、製品に損傷を与えないよう充分にご注意下さい。また、損傷などがある場合は使用しないで下さい。
- 長期間保管する場合、冷暗所に保管し直射日光を避けて下さい。
- 温度40℃以上及び過度の湿度、水分のある場所に長時間放置しないで下さい。
- 製品に火気が当たらないよう充分ご注意ください。
- 製品に荷重をかけないようご注意ください。
- 有機溶剤・油類が付着しやすい場所での保管はしないで下さい。